60 周年記念事業の趣旨

信州大学学士山岳会
会長　宮﨑　敏孝
（信州大学教育特任教授）

信州大学は本年、平成２１（2009）年6月１日に６０回目の開学記念日を迎えます。同時に信州大学山岳会・同学士山岳会も創部６０周年を迎えることになりますが、信州の地域性を最大限に活用した山行を続けてきて今日に至っています。また、最初の海外遠征隊を派遣してからも、４０余年が経過したことになります。

この間に私たちは下記十数回の海外登山隊を組織し、四つの初登頂という誇るべき実績を挙げてきました。延べ百余名の OB・現役部員がこれらの登山隊に隊員として参加し、また隊員ではなくてもこれらの遠征・登山隊に関わりを持った OB・学生は数え切れず、今日までの信州大学学士山岳会・同山岳会の活動の原動力となっています。

1967 年 8 月～68 年 2 月	ネパール王国ワンダリング遠征隊
1971 年 2 月～11 月	アンナプルナⅡ峰（7937m）
1975 年 9 月～10 月	ナンダグンデイ東峰（6100m）〔第２登〕
1978 年 2 月～6 月	**ジュティ・バフラニ峰（6850m）〔初登頂〕**
1978 年 8 月～10 月	**ニルギリ・サウス峰（6839m）〔初登頂〕**
1980 年 2 月～5 月	ガネッシュ・ヒマールⅡ峰（7111m）
1982 年 8 月～10 月	ガネッシュ・ヒマールⅡ峰（7111m）
1982 年 8 月～10 月	アンナプルナⅡ峰南稜（7937m）
1994 年 8 月～11 月	**ギャジカン峰（7038m）〔初登頂〕**
1996 年 8 月～11 月	**ラトナチュリ峰（7035m）〔初登頂〕**
2000 年 3 月～6 月	ガネッシュ・ヒマールⅡ峰（7111m）

〔記録未編集、未公表の登山隊〕（個人山行の詳細は不詳）
1987 年チュールイースト遠征隊、1989 年コンデリ登山隊、1990 年ハン・テングリ峰登山隊
1991 年パルチャモ登山隊、1993 年第二次アンナプルナⅡ偵察隊、 1993 年バインダーブラック登山隊

この節目の６０周年記念事業について、日本有数のクライマーを擁する信州大学学士山岳会は、若手ＯＢのパワーを結集した１０年ぶりの登山隊を派遣すると同時に、長年にわたりヒマラヤの山々に憧れの気持ちを持ちながら、諸種の状況で“延期”になっていた　ＯＢにも登山、トレッキングなどの機会として記念事業を検討、計画しました。

また、勤務や家庭の都合で、海外の事業に参加できないＯＢには、50 有余年続いている「上高地サマーテント」を中心とした国内のイベントを実施し、学士山岳会総体とし　６０周年記念事業を計画、実施したいと考えています。

新年１月上、中旬に信州大学の付属研究所、山岳総合科学研究所の高山域関連部門・分野の教員と共同調査、研究の連携について協議・検討し、下記テーマについて大筋で共同研究の合意ができました。

１）山岳環境科学部門：鈴木啓助　教授（理学部・所長：大気水圏環境動態解析分野）
ペリヒマール山域、マナンヒマール山域、アンナプルナヒマール山域の渓流水、雪、氷を採水、採取して持ち帰り、溶存物質分析および水分子の酸素、水素の同位体分析による調査山域の＜水質特性＞＜水の循環機構＞を検討、解析して新知見を得る。

２）高地医学・スポーツ科学部門：登山中のエネルギー消費のデータベース構築分野
：能勢　博　教授（医学部・加齢適応医科学・スポーツ医科学分野）
源野広和　教育特任教授（医学部・加齢適応医科学・スポーツ医科学分野）
スポーツ科学部門が中心となり開発された、運動量計測器『熟大メイト』を装着行動し、山行期間中のデータの回収、解析および毎日の体調記録データにより、５０００m以上の高齢者の運動機能、循環器機能の持続様態の未解明領域の解明をサポートする。

昨今、若者の山岳部離れが全国の大学で緊急に解決すべき課題になっていますが、我が信州大学山岳会の現役部員は今年 4 月現在、２年生１名、１年生３名の計４名となっています。我々は、この 60 周年記念事業を成功させることにより、信州大学に活力ある学生を呼び込みたいと願っており、そのことが現役部員の増大にも繋がり、規模、実力ともに大学山岳会をリードする組織になっていくものと確信しています。

大学の社会における使命のひとつは、様々な分野における「未知への挑戦」であり、次世代を担う若者に「未知への挑戦」の楽しさ、嬉しさ、喜び、厳しさなどをその実践を通して伝達していくことにあると考えます。信州大学の活動の一翼として６０周年記念事業として「高峰への、未知・未踏への、そして困難さへの挑戦」を課題とする“登山活動”を持続・展開することへのご理解と更なるご支援、ご援助をお願いする次第です